

## 三河国府跡確認調査(第3・4次調査)の概要

### 1. 調査の経緯

今回調査を行なった白鳥遺跡は、三河国分寺跡の西南西約500mの白鳥台地上に広がる総面積約25haの遺跡であり、従来から三河国府跡の推定地とされてきました。この地名「白鳥」は『続日本紀』に記載される白鳥の朝廷への献上に由来するといわれ、西側には国府(こう)と呼ばれる地名も残っています。

この白鳥遺跡一帯は、上郷中、下郷中の字名に示されるように昔からの集落が広がり、社寺が点在しています。現在までのところ台地東側や総社の南側、白鳥神社の北側などにはまとまった畑地がありますが、名鉄本線国府駅に近く、交通の便の良いことから宅地化が徐々に進行しているため遺跡の保護についての対策を早急に講ずることが課題とされました。

そこで豊川市教育委員会では、三河国府跡確認調査委員会を組織し、平成3年度から発掘調査を行なっています。

これに基づいて行なわれた第1・2次調査は総社西側の豊川市土地開発公社所有の旧畑地で行なわれ、国府に関連すると思われる遺構、遺物などが出土しています。まず、最初に行なわれた第1次調査では、確実に国府関連と思われる遺構は確認されなかったものの、国府の時期の遺物が多数出土しました。これにより、この白鳥遺跡がほぼ三河国府の跡であることが裏付けられました。平成4年度に行なわれた第2次調査では、遺構の確認に重点がおかれ、調査の結果、国府関連の遺構と思われる大型の柱が12か所で確認されました。これは恐らく、国府の重要施設を区画する塀になるものと思われ、この付近のどこかに国府の重要施設が存在することが、推定されました。



- 1. 白鳥遺跡 2. 天間遺跡 3. 駒場遺跡 4. 天間古窯跡 5. 門田遺跡 6. 野口城跡 7. 伊知多神社遺跡 8. さんまい山古墓 9. 三河国分尼寺跡 10. 三河国分寺跡 11. 西明寺西古窯跡 12. 船山第1号墳 13. 久保古墳 14. 坊入遺跡 15. 船原遺跡

白鳥遺跡（三河国府推定地）の周辺

## 2. 第3次調査の概要

第3次調査は当初予定していなかったもので、緊急に行なったものです。調査地点は第2次調査区のすぐ北隣の地点で、民家の立て替えを契機としています。この地点は2次調査で検出された柱穴列の延長上にあたり、この柱穴列がさらに北側にも延びていると想定されたため、調査を行ないました。調査の結果、予想どおりの位置から柱穴が確認され、まださらに北側に延長していることが判明しました。なお、この3次調査までに確認された柱穴列は総延長で47.5mに及ぶことから、非常に大きな施設を区画するものと思われ、中樞施設の一部である可能性が非常に高くなったと言えます。

なお、この柱穴列以外の遺構としては、竪穴住居跡1軒、土坑、溝などが検出されています。

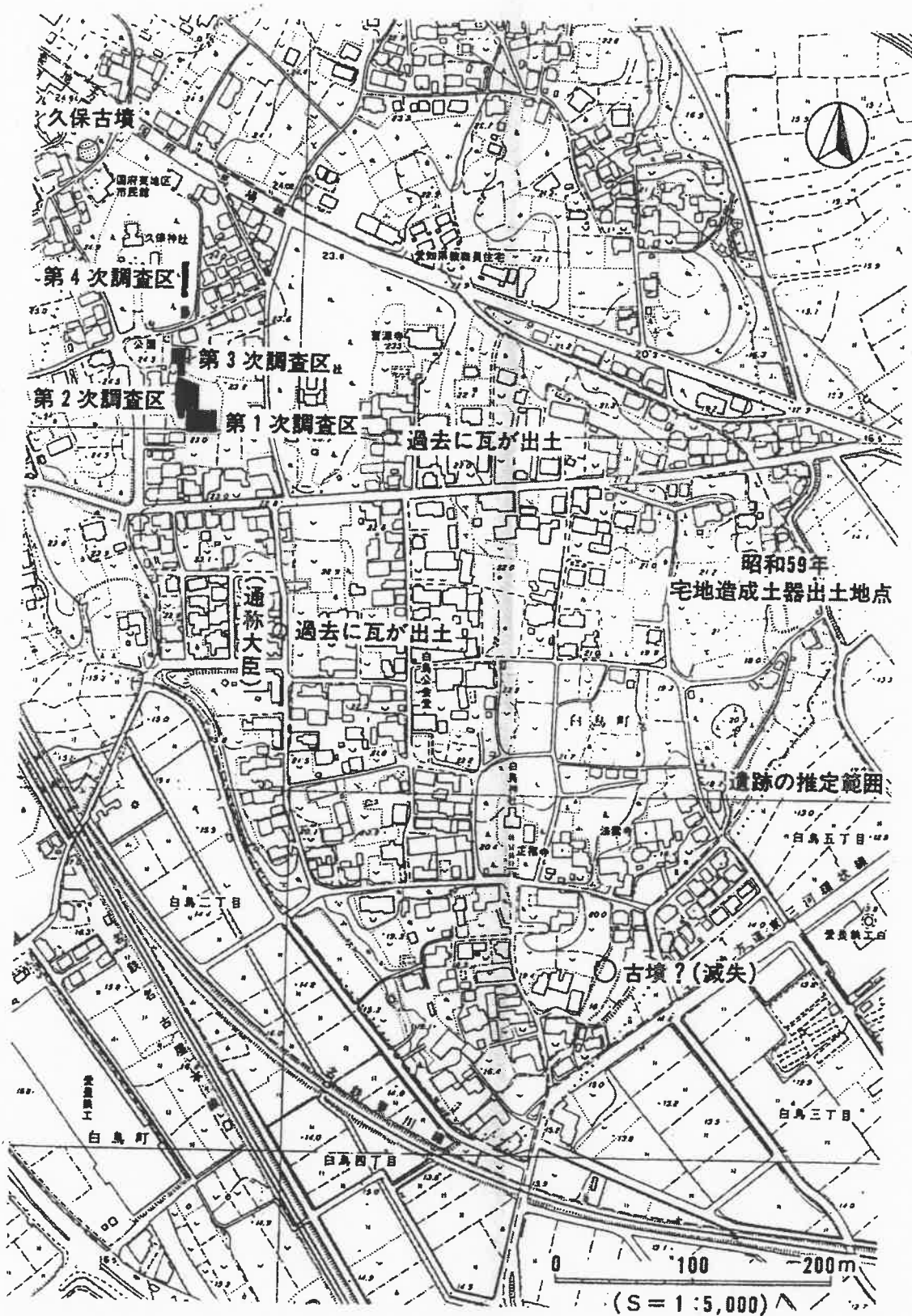
## 3. 第4次調査の概要

第1～3次調査の成果として、検出された柱穴列が総延長47.5mに及び、さらにその北側に延びることが判明しました。このまま延長すると仮定すれば久保神社の境内地にあたる可能性があります。この点について検討した結果、この柱穴列の追求を最優先にすべきとの結論に達したため、久保神社関係者と協議を行ない、調査の承諾を得ることができました。

調査を進める上でのポイントは、柱穴列がどこまで続くのか、また曲がるとすればどちらの方角に曲がるのかに置かれました。これらを念頭において調査を進めたところ、予想された地点からは柱穴列は検出されませんでした。このことから柱穴列は、第3次調査区と第4次調査区の間で折れ曲がるか、もしくは消滅してしまう可能性が高くなりました。

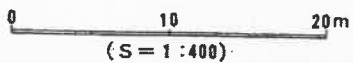
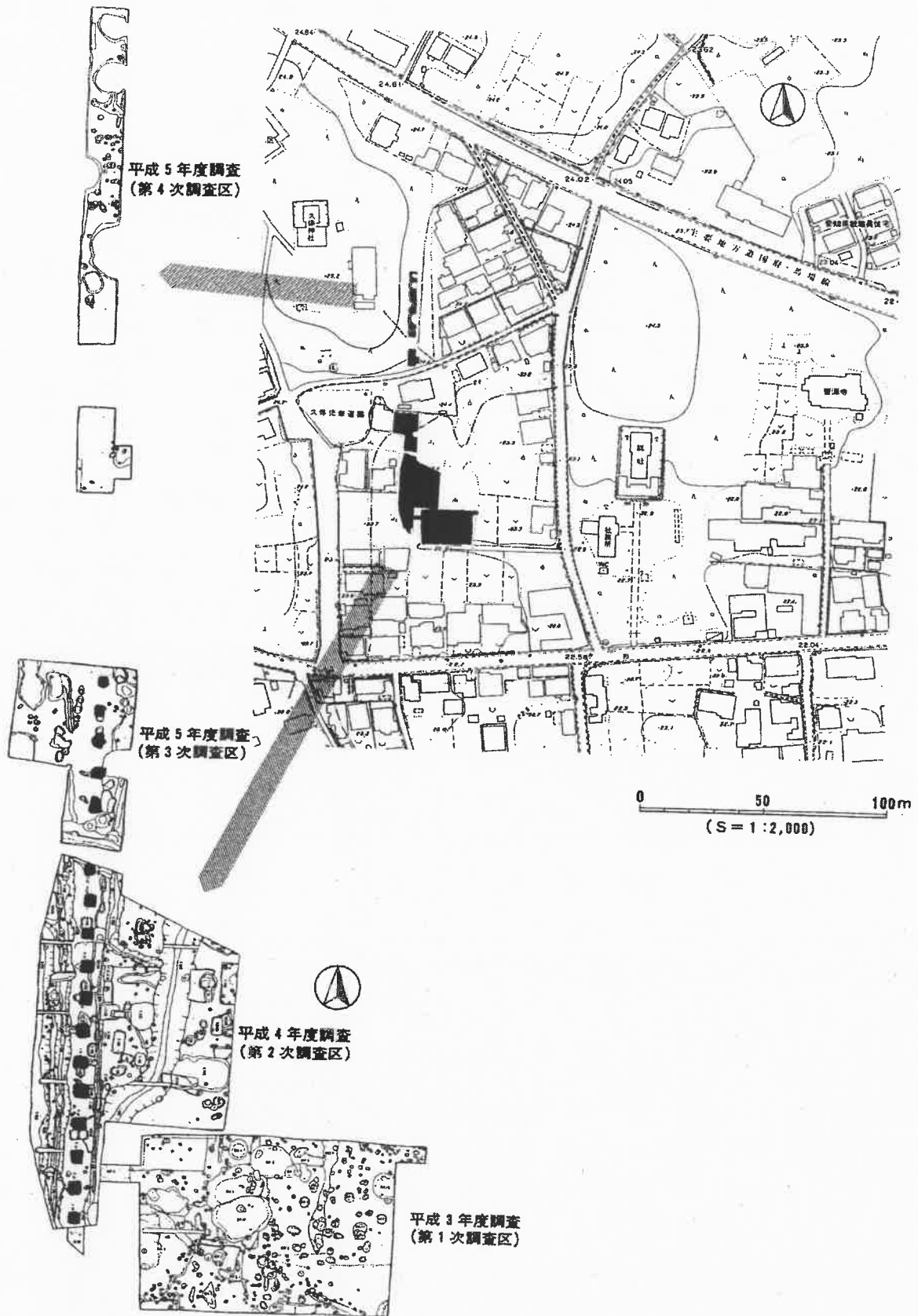
## 4. まとめ

今回の調査により、柱穴列の北限がほぼ特定でき、中樞施設がこの調査区の付近に存在する可能性が高くなりました。今後も三河国府の確認調査は継続して進めていく予定ですので、近い将来、政庁や国司館などの中樞施設が確認されていくものと思われ、今後の継続調査に期待がかかるところです。

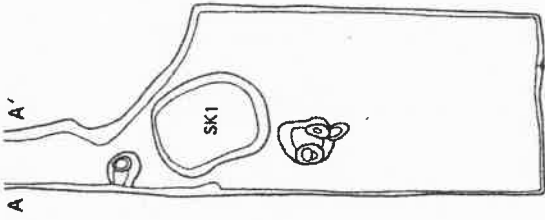


白鳥遺跡全体図

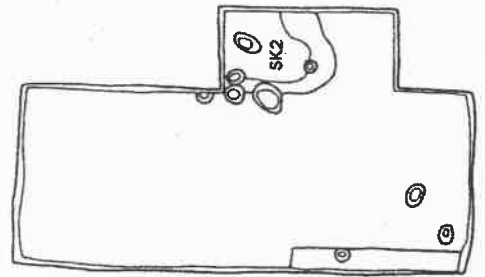




第1次～4次調査遺構全体図

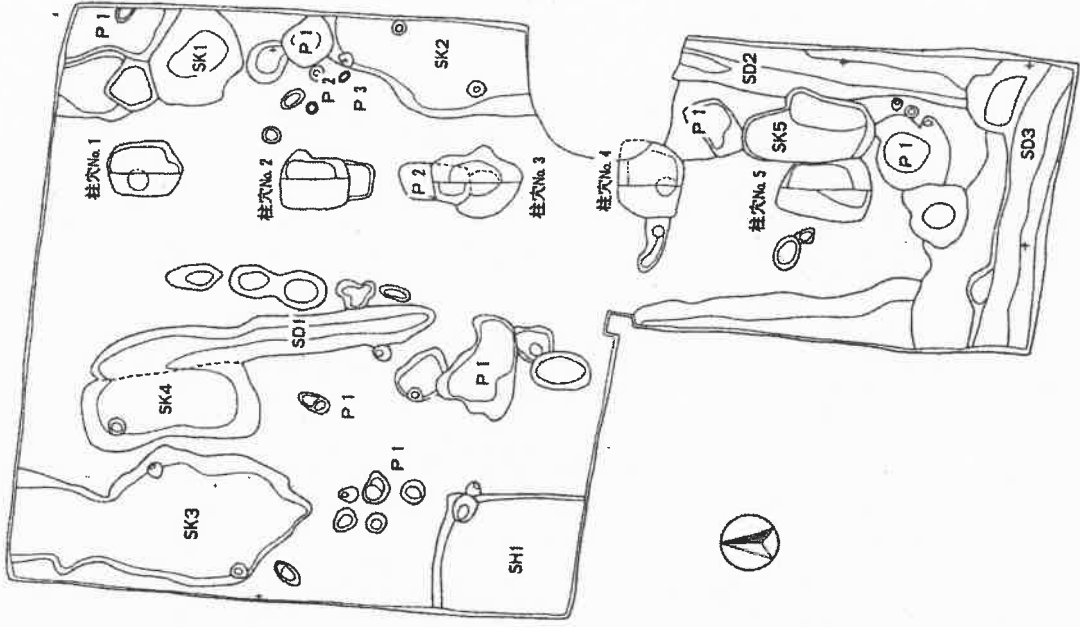


5 m  
(S = 1 : 100)



サマツノミナ

三河国府地誌調査第4次調査区遺構全体図



0 5 m  
(S = 1 : 100)

三河国府地誌調査第3次調査区遺構全体図